

生体分子計測研究所

高性能ナノ顕微鏡販売へ

バイオ計測機器販売の生体分子計測研究所(つくば市榎戸、岡田孝夫社長)は、ナノ(100万分の1^ミ)レベルで物質を観察できる組み立て式の原子間力顕微鏡(AFM)の販売を始める。台湾メーカー製品の国内独占販売権を取得した。高性能なため、通常は高額なAFMを安価で提供することで、教育分野への活用を促したい考え。

同社が販売する「DIY-AFM」と、原子核の周りを回っている電M」は、一般的な光学顕微鏡の1子が発光し合う性質(原子間力)00~1000倍の拡大倍率がある。AFMは、物質同士が近づくを利用した顕微鏡。使用者が組み立て



組み立て式原子間力顕微鏡をPRする生体分子計測研究所の岡田孝夫社長(つくば市榎戸)

台湾メーカー製式 学校向け、安価で提供

られる。

主な部品はAFM本体とコントローラの一つで、本体は2時間余りで組み立て可能。完成品は円柱型で、直径と高さはいずれも約12センチ。スキャナーで読み込んだ画像データを3Dプリンターに入力すると、観察画像の3次元模型が作成できるほか、ワイヤレス化、スマートフォンからの遠隔制御など、IoT(モノのインターネット)化にも対応できる。

3日に発売する。標準キットは税別45万円。基本ソフト「ウィンドウズ」対応のパソコンが別途必要。電話や電子メールによるサポート料金(1年間)が含まれる。箱形コントローラ付きのアドバンスキットは同150万円。

同社によると、一般的なAFMは1000万円前後と高額なため、学校などにはほとんど導入されていないという。同社は理科教育で使用される光学顕微鏡よりも安価な同製品を教育現場に普及させたい考え。

岡田社長は「教育と技術の融合『エドテック』の一環として位置付け、ものづくりや科学に対する若者の関心を高めたい」としている。

(大平賢二)